

2024年(令和6年)2月17日(土曜日)

上の句に耳を澄ませ…

木札争奪 白熱戦



恒例の「百人一首かるた大会」で白熱した試合を展開する生徒たち(提供写真)

室蘭・海星学院高校「百人一首大会」

約40年続く海星学院高校(堺俊光校長)の伝統行事「百人一首かるた大会」が13日、室蘭市高砂町の同校で開かれ、1、2年生119人が練習の成果を発揮し、白熱した試合を繰り広げた。

小倉百人一首の競技を通して和歌に親しみ、古典を知ってもらうと、前身のカトリック室蘭女子高校時代から続いている。大会は道内で一般的な下の句ではなく、上の句を読み上げて行つのが特徴。最多で10人による札の取り合いになるため、暗記力や句の意味の理解力が求められる。

昨年12月から練習してきた生徒。クラスごとに5人1組24チームに分かれ、学年ごとに予選リーグを行い、上位2チームが決勝トーナメントに進んだ。決勝は2年生同士の対戦。一進一退で最後まで勝敗がもつれ込み、チーム高橋が最終的に4枚差で2年連続の優勝をものにした。

優勝チーム代表の高橋一翔さん(2年)は、素性法師の女性の立場に立った切ない恋心を詠んだ和歌が好きという。2年連続のトップに「チームワークあつての勝利。みんなの協力のおかげです。高校時代の大きな思い出になりました」と喜びをこみしめた。(山本早希)